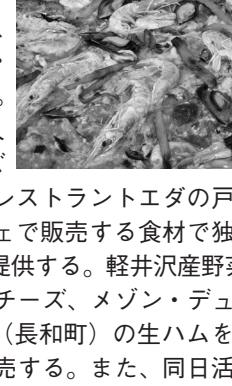


マリンのブログも見てね。「マリン記者」で検索。

この日だけの独自メニューも提供
信州・美食マルシェ

軽井沢を美食の町として発信しようと、昨年発足した「美食リゾート軽井沢」が6月18日、軽井沢発地市庭で「信州・美食マルシェ」を開く。町内外の生産者約10人が、野菜や果物、チーズなどの加工品を販売。レストラントエダの戸枝忠孝シェフらが、マルシェで販売する食材で独自メニューを作りそれぞれ提供する。軽井沢産野菜に、ボスケソ（佐久市）のチーズ、メゾン・デュ・ジヤンボン・ド・ヒメキ（長和町）の生ハムを合わせたサンドイッチも販売する。また、同日活動をスタートする、「軽井沢・男子美食俱楽部」メンバーによるパエリヤの振る舞いもある。



軽井沢・男子美食倶楽部では、料理の腕前を競うコンテストや、料理教室などを開いていく予定。料理好き男性メンバーを募集している。



小説家の野上弥生子書斎 21年ぶり屋根葺き替えへ

軽井沢高原文庫の中庭に建つ、小説家野上弥生子の書斎の葺き替え工事が4月24日から始まった。建物は1933年、北軽井沢の大学村に山荘の離れとして建てられたもの。茶室風に設計され、作家らの交流の場としても使われた。1996年同文庫に移築されたとき、葺き替えも行ったが、近年カラスが茅を抜いていたり、上に茂った木の枝から垂れる雨水などで劣化が進んでいた。工事期間中は建物の公開を中止。7月15日から同館で始まる企画展「野上弥生子展～99歳まで書き続けた作家～」に合わせて、7月16日から一般公開される予定。



せ見学を再開する。大藤敏行副館長は「展示と合わせ、きれいになった書斎兼茶室も楽しんでもらいたい」と話している。

Scenery of Karuizawa



作：越智雄二
1918年愛媛県出身。画家。軽井沢に滞在し、浅間山や風景を数多く描いた。

町内2社目、丸山珈琲
職場いきいきアドバンス

コーヒー豆の販売、喫茶店営業の丸山珈琲が4月12日、多様な働き方を導入するなど、職場環境の改善に取り組んだとして、県から「職場いきいきアドバンスカンパニー」の認証を受けた。軽井沢町ではクラフトビール製造のヤッホーブルーリングに続き2社目。丸山珈琲は軽井沢町内2店舗を含む、県内外に9店舗を展開。従業員数はパートも含め約150人。育児・介護などで長時間勤務できない人でも働きやすいよう、短時間正社員制度を取り入れ、有給休暇の半日取得の設定などにも取り組んだ。同社の総務・経理担当の秋山千春さんは「これからも長く働いてもらえる環境、制度づくりに取り組んでいきたい」と話した。

